

2025年3月期 第2四半期 決算説明会

2024年11月15日

新電元工業株式会社
証券コード：6844

電気自動車用 見せない普通充電器®



**GOOD DESIGN
AWARD 2024**

見た目のアレンジはご自由に。
欲しい機能はリモコンで。
そのまま設置もOK。



見せない普通充電器
PM-CS09シリーズ

Contents

01

2025年3月期第2四半期業績
2025年3月期通期業績見通し

取締役 財務統括
受川 修

02

構造改革と成長戦略

代表取締役社長
田中 信吉

2025年3月期第2四半期業績

2025年3月期第2四半期業績

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年3月期 上期実績	2025年3月期 上期実績	前年同期比
売上高	496	506 為替影響による増収 21	+ 1.9%
営業利益	4	4 為替影響による増益 11	▲ 9.8%
営業利益率	0.8%	0.7%	▲ 0.1pt.
経常利益	7	▲ 3	—
純利益	▲ 10	▲ 11	—
単位：JPY/USD			
単体取引高レート	139.95	154.87	+ 14.92円

- 円安効果の恩恵により、
売上、利益ともに前年同期並みに。
為替影響がなければ、**減収減益**。
- 中国の景気低迷長期化により
デバイス事業が減少。
- 2Qに為替差損を計上したことで
経常利益は大きく減少。
- デバイス構造改革実施により
特別損失を計上（下期も追加費用発生を想定）。

2025年3月期第2四半期業績（デバイス）

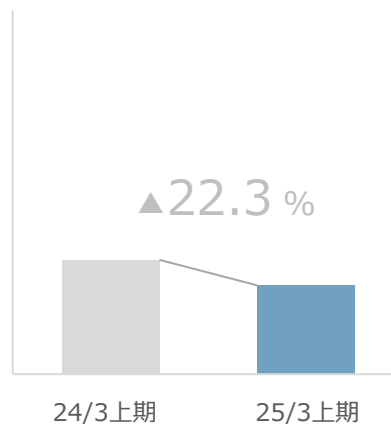
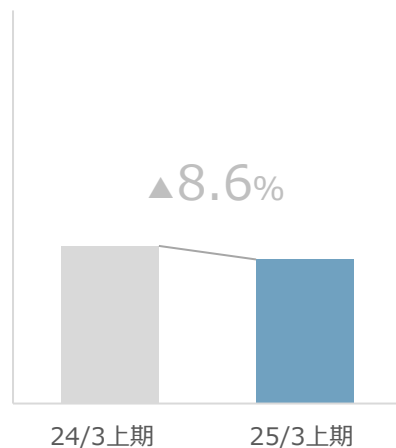
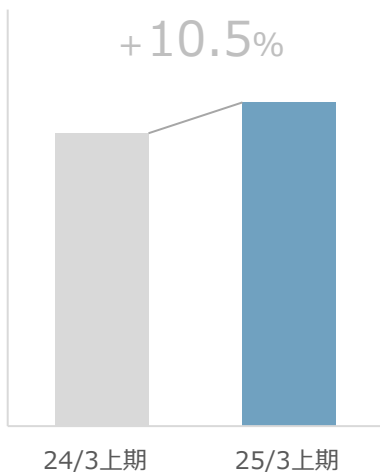
単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年3月期 上期実績	2025年3月期 上期実績	前年同期比
売上高	164	154	▲5.9%
営業利益	▲2	▲2	—

自動車

家電

産機



- 中国の景気低迷長期化により
産機が大きく打撃を受けたことにくわえ、
価格競争も進行し、減収。
- 減収や生産稼働率低下の影響あるも、
販売価格の適正化を進め、
損益は前年同期並みに。
- 強固な事業基盤を構築するため
事業構造改革を実施中。
2026年3月期に15億円規模の
事業収益改善効果を狙う。

2025年3月期第2四半期業績（電装）

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年3月期 上期実績	2025年3月期 上期実績	前年同期比
売上高	308	321	+4.2%
営業利益	32	28	▲11.5%

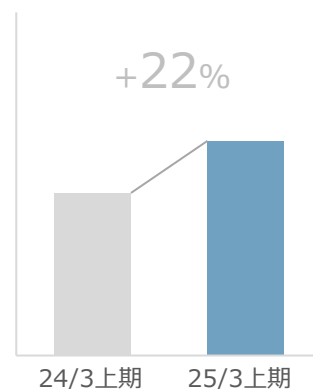
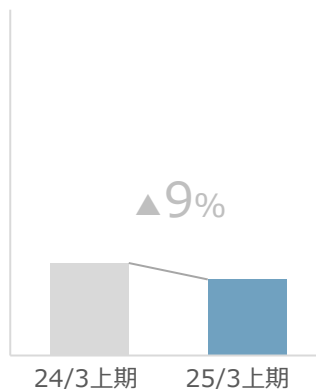
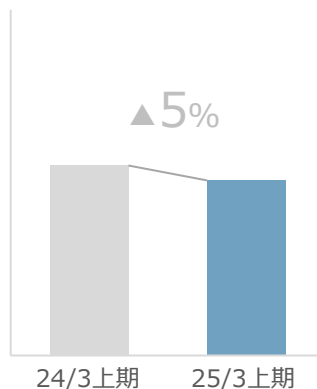
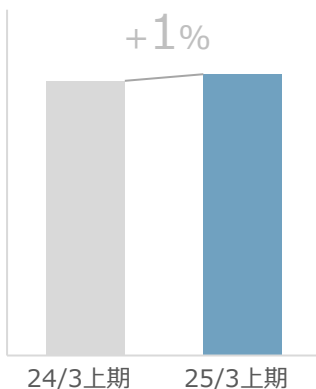
現地グループ会社の二輪車向け売上高（現地通貨ベース）

インドネシア

ベトナム

タイ

インド



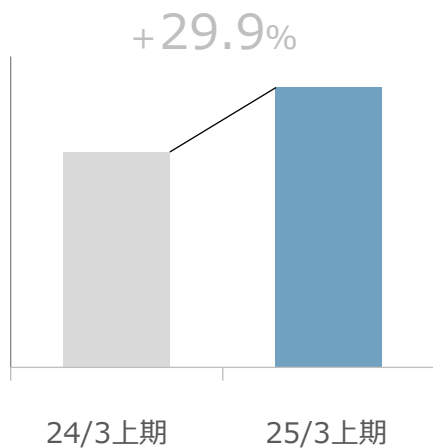
- 二輪はインドが全体をけん引、
四輪もYoYで伸ばした一方、
発電機用インバータは
競争環境激化により低調。
対アジア通貨で円安に推移し、増収確保。
- 円安効果はあったものの、
材料費高騰の影響などにより、減益。

2025年3月期第2四半期業績（エネルギーシステム＋その他）

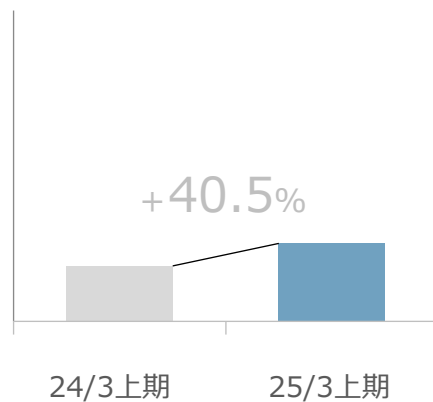
単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年3月期 上期実績	2025年3月期 上期実績	前年同期比
売上高	24	31	+ 25.9%
営業利益	▲3	1	—

通信



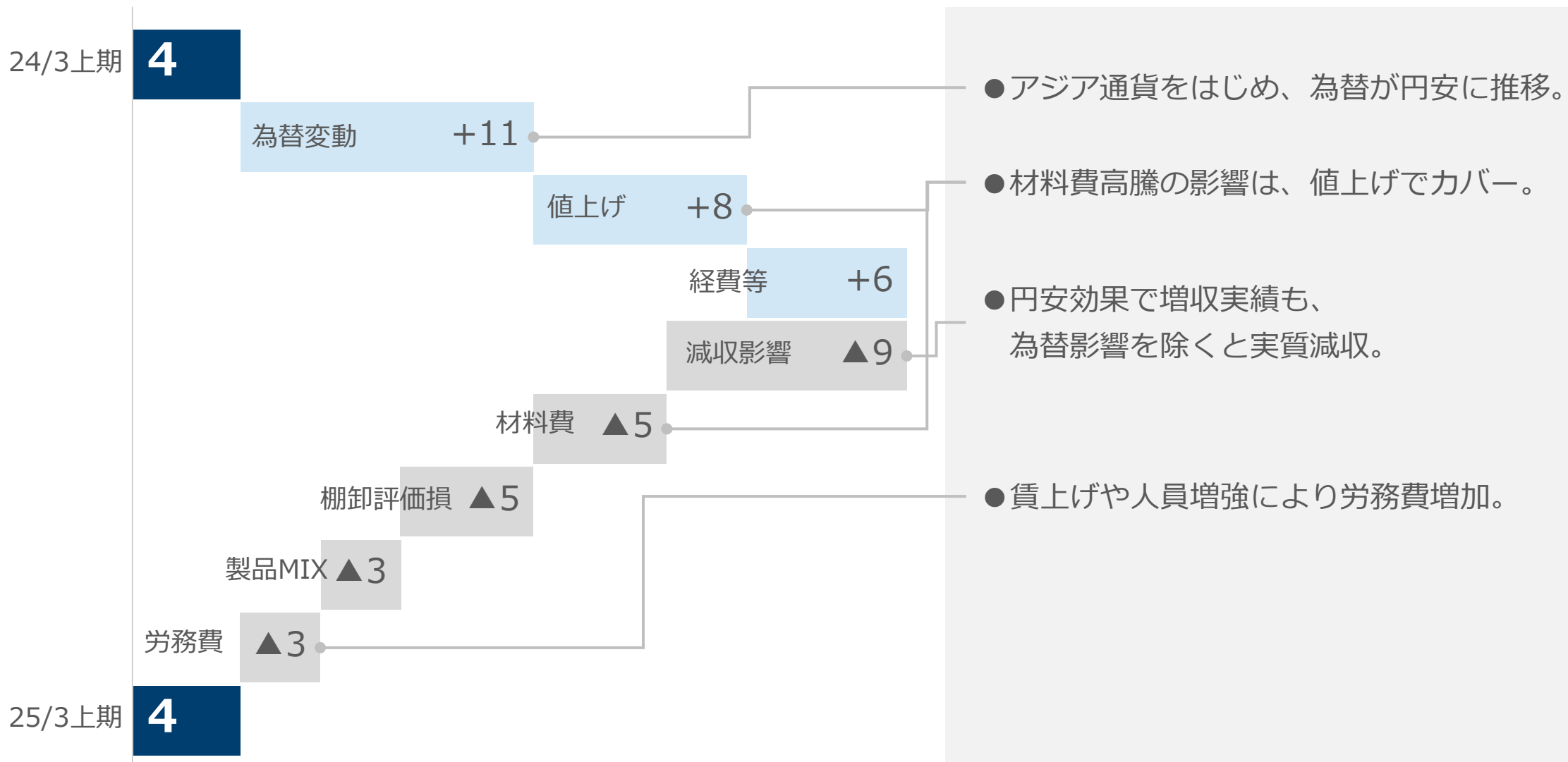
EV充電器



- 通信インフラ向け整流装置は伸長、EV充電器は補助金拡大で増加。
- 主に通信インフラ向け整流装置が伸びたことで損益面では利益を確保。充電器作り込みによる棚卸増の側面も。

2025年3月期第2四半期営業利益の増減

単位：億円（億円未満四捨五入）



単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年3月期 上期実績	2025年3月期 上期実績	前年同期比
設備投資	21	21	+ 1.9%
減価償却費	27	26	▲ 2.2%
研究開発費	23	27	+17.2%

- 投資と減価償却は前年同期並み。
- 将来の成長に向けた研究開発は着実に進行中。

2025年3月期第2四半期貸借対照表

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2024年3月期末	2025年3月期 上期末	増減比
流動資産	891	917	+2.9%
固定資産	556	525	▲5.5%
資産合計	1,447	1,442	▲0.3%
流動負債	311	309	▲0.8%
固定負債	426	459	+7.6%
負債合計	738	768	+4.1%
株主資本	540	516	▲4.5%
その他包括利益累計額	170	159	▲6.3%
純資産合計	709	674	▲4.9%
総資産合計	1,447	1,442	▲0.3%
自己資本比率	49.0%	46.8%	▲2.2pt.
有利子負債残高	389	449	+15.5%

- 現預金を確保したこと等で流動資産増。
- 投資有価証券の時価評価替え等により約30億円の固定資産減。
- 資産合計はおおむね横ばい。
- 借入金増により、有利子負債増加。
- 25年3月期上期の損失計上および配当金の支払いで利益剰余金を減らし、株主資本減。

2025年3月期通期業績見通し

2025年3月期通期業績見通し

単位：億円（億円未満四捨五入）

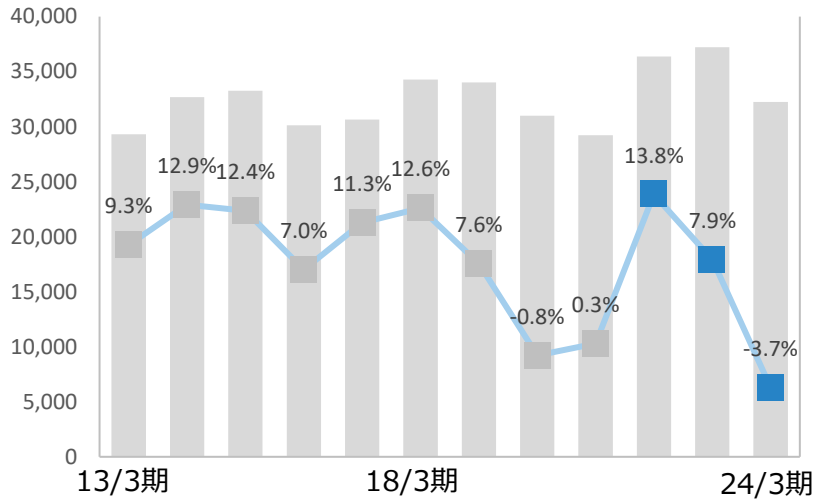
	2024年3月期	2025年3月期		前期比
	実績	期初予想	11/1修正予想	
売上高	1,023	1,066	1,063	+ 3.9%
営業利益	13	25	22	+72.0%
営業利益率	1.3%	2.3%	2.1%	+0.8pt.
経常利益	17	26	17	+ 2.4%
当期純利益	▲7	16	3	—
単位：JPY/USD				
単体取引高 レート	143.95	140.00		▲3.95円

- 11月1日に業績予想を修正発表。
下期は期初の予想数値を据え置き、
上期分のみ修正した。
- デバイス事業の構造改革に関わる費用は
現在精査中。
今後の市場動向の見極めと合わせ
見込みが立ち次第、お知らせ予定。
- 為替レート的前提は
1USドル140円で期初から変更無し。

デバイス事業の構造改革

デバイス事業の業績推移

単位：百万円/営業利益率



構造改革で目指す姿

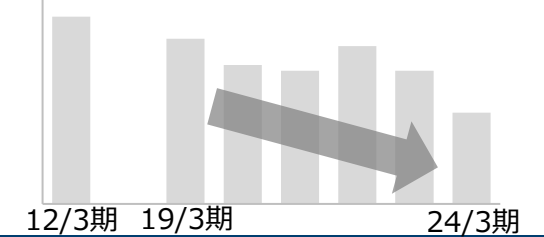
市場環境の変動に左右されない **強固な事業基盤の構築**

中華圏ビジネスの最適化、
事業全体のあり方を再構築していく

中華圏を担う新電元香港の売上は
ここ5年で約半減

新電元香港売上推移

現地通貨ベース



主な施策

01

生産面

低稼働品の生産適正化や廃品化で
事業全体の生産コストを圧縮

02

物流面

物流業務のアウトソースによるコストの削減と
物流スペースの生産転用

03

販売面

中華圏販売体制の効率化など
地域のニーズに適した体制へ再編

04

人員削減

事業全体の適正化に合わせ、
国内外のグループ会社で希望退職実施

01

生産面

低稼働品の生産適正化や廃品化で
事業全体の生産コストを圧縮

point

車載向けやモジュールなどの生産を増強し
付加価値をうむ生産体制を構築する。

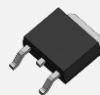
秋田新電元

これまで

車載向けモジュールなど
高付加価値品は堅調
ダイオードが
中国景気低迷で生産減

これから

面実装品を
フィリピンから生産移管

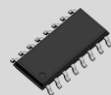


高付加価値品に注力

東根新電元

これまで

家電・産機向け
パワーIC、MOSFETを生産
産機市場打撃で、生産減



これから

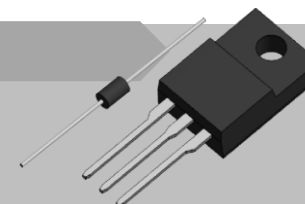
低稼働品などの縮小、廃品化
クリーンルームを一部縮小

一部閉鎖で維持費用削減

新電元フィリピン

これまで

中華圏向けダイオードの
生産実績多数
中国景気低迷で、稼働率低下



これから

低稼働品などの縮小、廃品化
面実装品を秋田新電元へ移管

2棟体制を1棟体制に

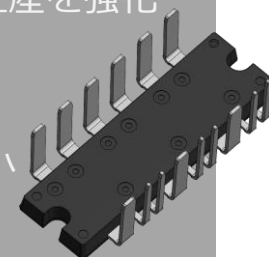
ランブーン新電元

これまで

ダイオードとモジュールの
後工程を担う
2020年代に入り
パワーモジュール生産を強化

これから

ダイオード一部縮小
電装事業向け
内製モジュール生産を強化



事業シナジーを創出

02

物流面

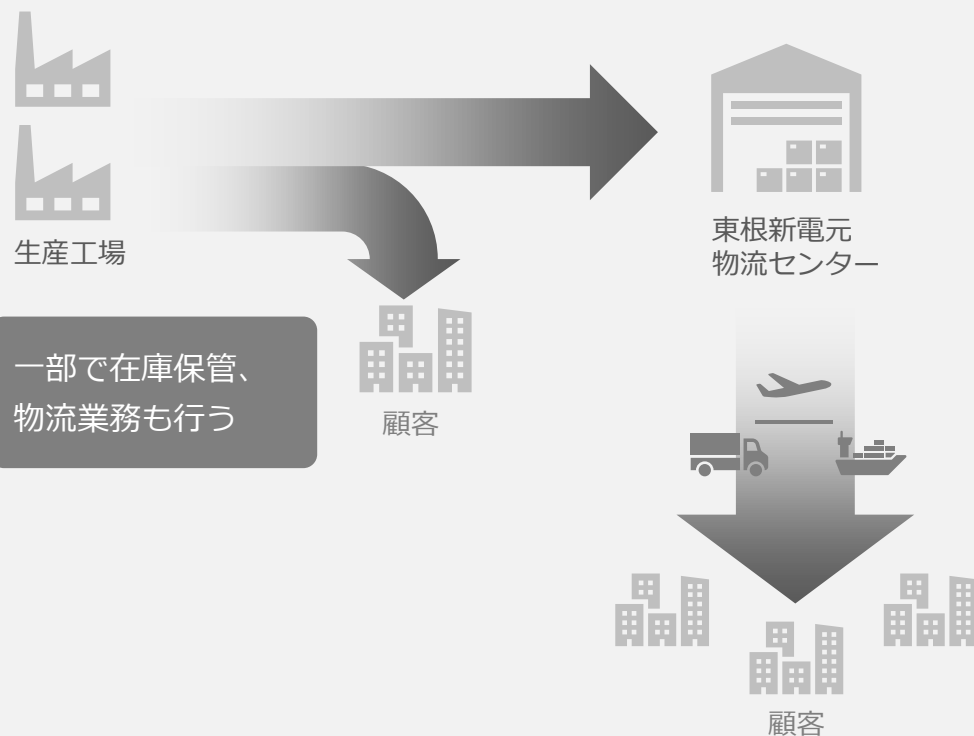
物流業務のアウトソースによるコストの削減と
物流スペースの生産転用

point

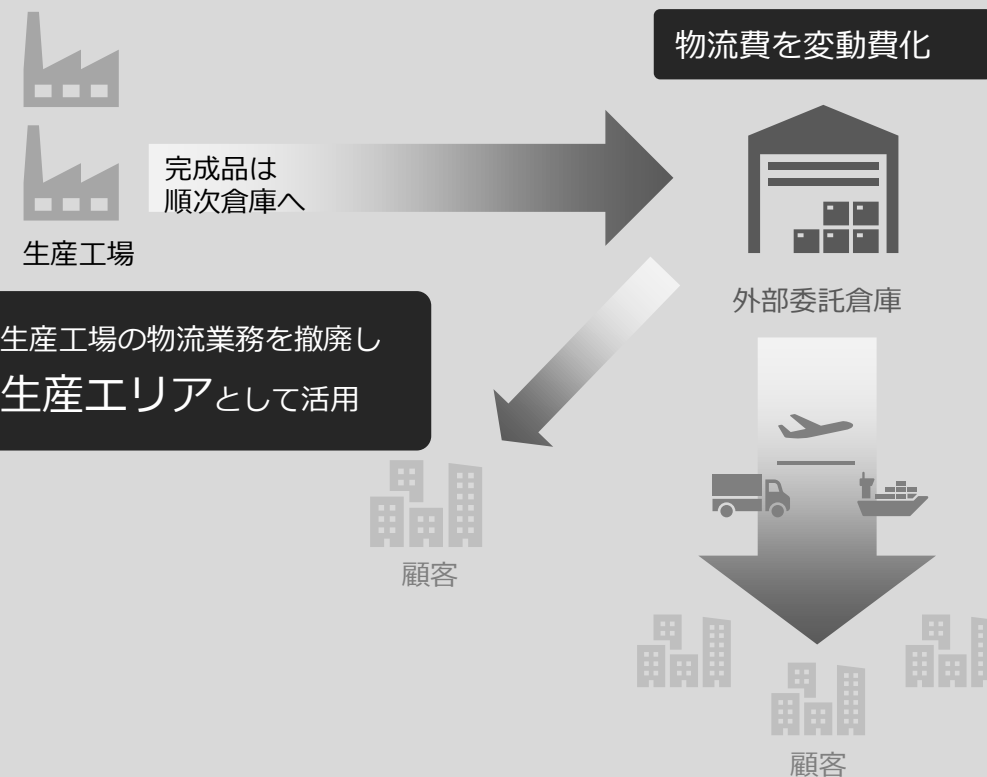
生産工場における在庫保管エリアを、外部倉庫へ移設。

工場内スペースを**付加価値**をうむ
生産エリアとして活用していく。

これまで



これから



03

販売面

中華圏販売体制の効率化など
地域のニーズに適した体制へ再編



04

人員削減

事業全体の適正化に合わせ、国内外のグループ会社で希望退職実施

デバイス事業人員

2,799名
2024年3月末時点



削減対象：

350名規模



グループ全体で

1割超を削減へ



本日説明した構造改革は、

2025年3月末までに

完了予定。



2026年3月期に、

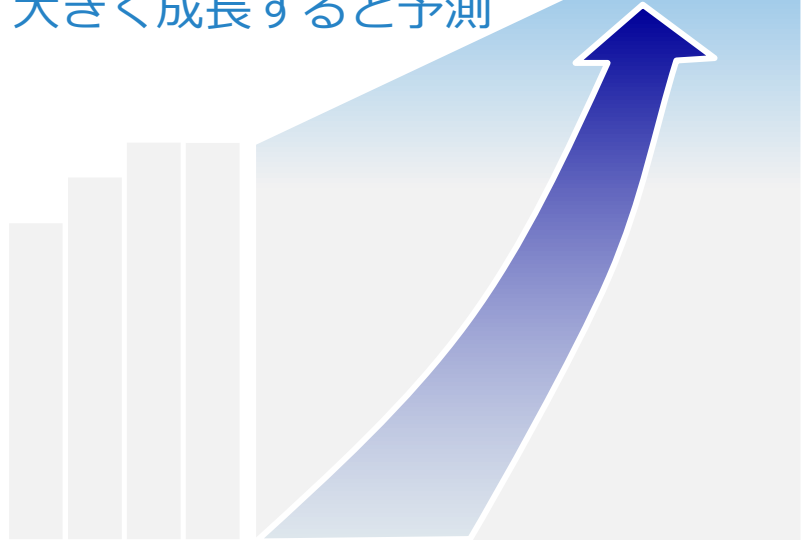
15億円規模の事業収益改善効果を狙う。

インド市場戦略の全社推進

Make in India をキーワードに

車載メーカーの進出が進み、
インド国内産業の裾野が拡大

インド車載市場は
大きく成長すると予測



2030年

新電元インド第2工場 2027年稼働へ

デバイス事業

車載向けをターゲットに
デバイスの**現地生産**を
視野に進める

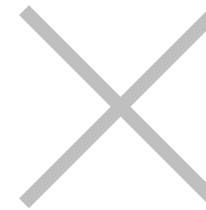
電装事業

拡大する需要に備え

生産能力を拡大

自社デバイスの現地調達で

価格競争力向上へ

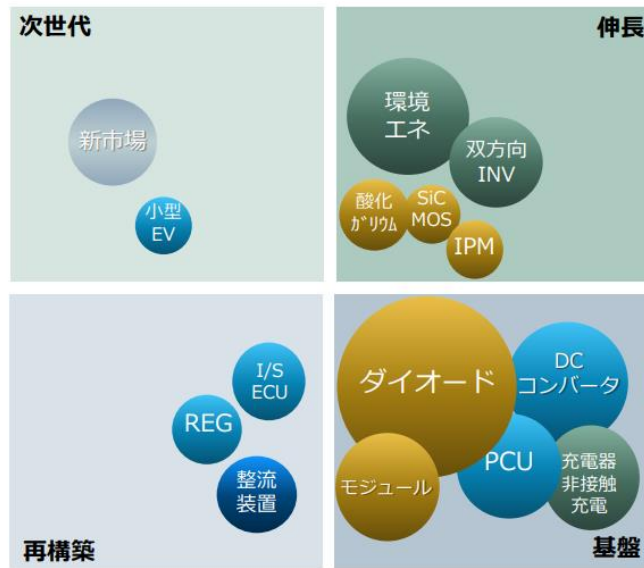


デバイス開発からユニット開発まで
インド国内にて**一気通貫**で行う体制構築へ

製品ポートフォリオ見直し

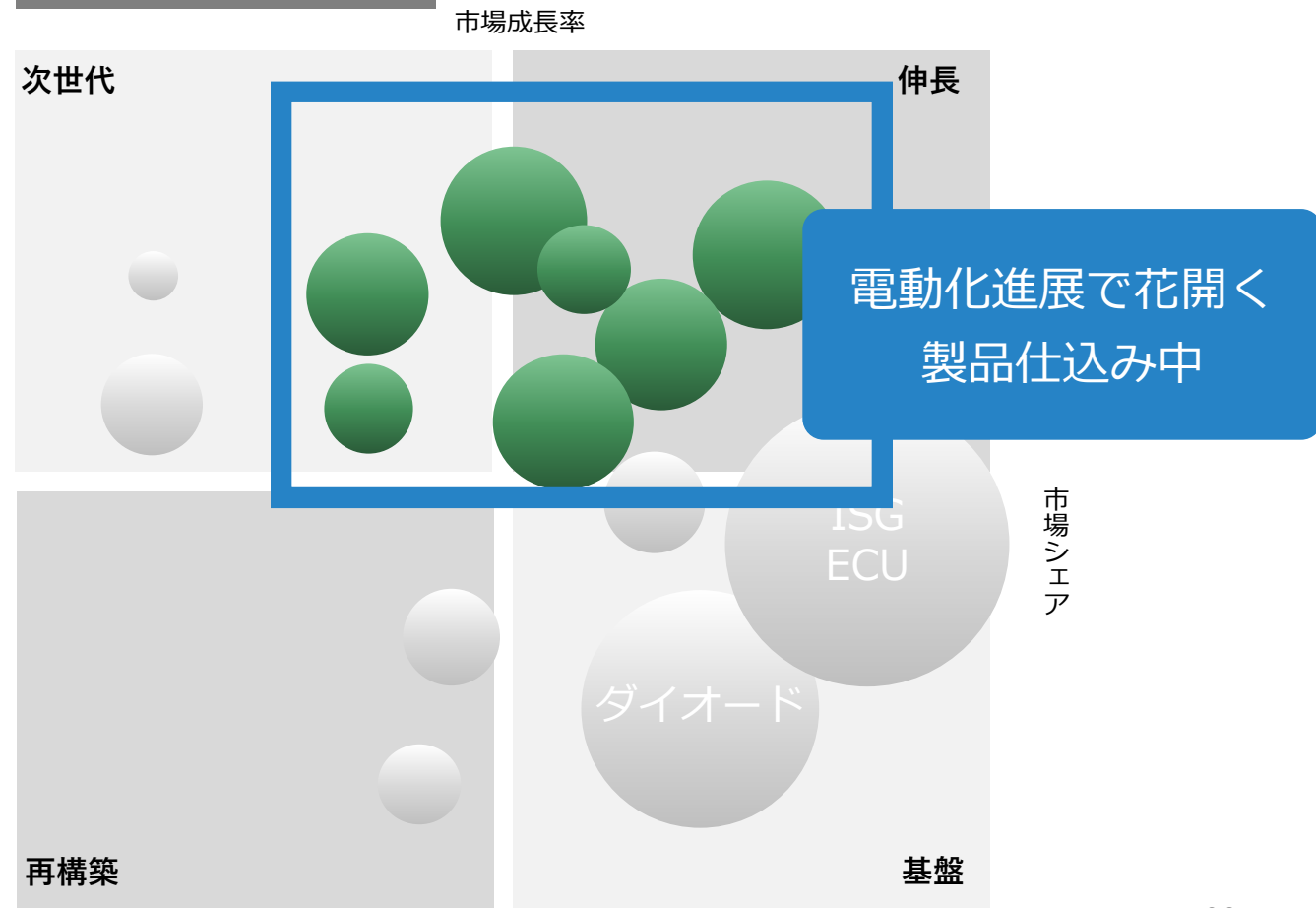
長期ビジョン2030で公表している2030年の製品ポートフォリオ（2022年公表）について、市場環境の変化や当社の置かれた状況を踏まえ、アップデートを進め、次期中計につなげる。

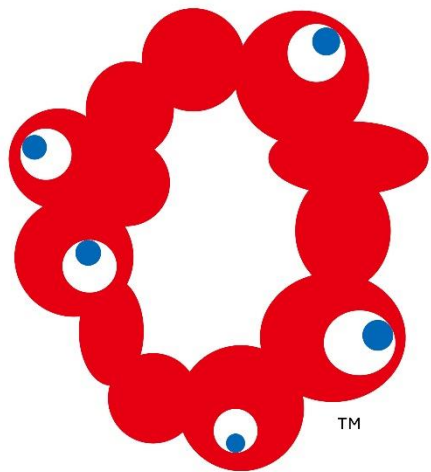
◆2022年5月公表



電動化進展遅れにより
2030年時点で再構築に位置付けた製品も
一部、基盤事業であり続けると想定

◆現在見直し中





OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025

ShinDengen /
New power. Your power.

新電元工業株式会社は、
2025年大阪・関西万博「運営参加サプライヤー」として
協賛しています。

©Expo 2025

END